

ごあいさつ

文学研究科長 佐賀 朝

大阪公立大学大学院文学研究科・文学部は、大阪市立大学大学院文学研究科・文学部を前身として、2022年4月に発足しました。

大阪市立大学はその起源を辿れば19世紀にまで遡る伝統ある大学です。私たちの文学部は戦後の1949年、まず法文学部として出発し、1953年に文学部として独立しました。同年には、早くも文学部の大学院である文学研究科（修士課程）が設置されています。以来、「人文学」を中心に据えた教育・研究を一貫して展開しながら、徐々に組織の拡充をはかり、1970年代前半には、すべての専攻に修士・博士両課程を備えた、全国でも有数の規模を誇る大学院に成長しました。

文学研究科にとって近年の画期となったのは、21世紀の初頭（2001年度）に大学院重点化を達成し、研究中心の大学院大学として再出発したことです。折しもその翌年、2002年度には文部科学省の21世紀COEプログラムに文学研究科の「都市文化創造のための人文科学的研究」（2002～2007年度）が採択され、研究科における共同研究の高度化が一気に加速するとともに、学際的、応用的研究が進展を遂げました。

文学研究科は、旧来の伝統的な基礎学を大切にす一方、時代や社会の要請に応えるべく学際的、応用的な学問分野の開拓にも努めてきました。そして、2020年度には、文化構想学専攻を新設し、基礎・応用両面にわたる、より充実した教育・研究環境を構築しました。このような進展の延長線上に、これまでの理念、カリキュラム、教員体制を引き継ぎ、2022年度に、大阪公立大学大学院文学研究科・文学部が設立されました。

文学研究科では、COE事業以来の研究拠点である都市文化研究センターが、若手研究者を含む研究プロジェクトを企画する一方、アジア、アメリカなど海外の大学との学術交流にも力を注いでいます。さらに、若手研究者を学術的・経済的に支援するさまざまな制度も整備し、修学環境をより向上させるべく努めているところです。

これまでに多くの優秀な研究者を輩出し、新体制の発足によりますます魅力を増した文学研究科で、ともに学問に取り組むみなさんを心からお待ちしております。

- ▶ 大阪公立大学大学院文学研究科ホームページ <https://www.omu.ac.jp/lit/>
- ▶ 大阪市立大学大学院文学研究科ホームページ <http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/>

大阪公立大学大学院文学研究科の 4つの特色

1. 世界的な研究拠点

21世紀COE^{*1}プログラム（文部科学省による世界的研究教育拠点形成のための支援事業）や頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム（日本学術振興会）に採択されるなど、文学研究科は、グローバルな研究拠点としての地位を確立してきました。

文学研究科における研究拠点が都市文化研究センター（UCRC^{*2}）です。都市や文化にかかわる研究プログラムがいくつも、並行して進められ、大きな成果を上げています。UCRCは、雑誌『都市文化研究』やオンライン英文電子ジャーナル"UrbanScope"を発行して来ました。

文学研究科やUCRCは、海外の複数の大学と連携しており、さらに今後は人文学の多様な領域特性を生かした学際的研究拠点を構築していく予定です。

- ※1 COE：Center of Excellence（卓越した研究拠点）
- ※2 UCRC：Urban-Culture Research Center

3. 若手研究者を育て、伸ばす

文学研究科は、大学院生や、博士後期課程を修了した若手研究者に対して、充実した教育をおこない、安心して研究を進めることができる環境を用意しています。

都市文化研究センターは、若手研究者を「研究員」として採用しています。UCRC研究員になれば、大阪公立大学の図書館を利用したり、『都市文化研究』に投稿することができます。

文学研究科では、自らの研究成果を国際的に発信できる若手研究者を育成するため、さまざまな支援事業を用意しています。学会発表や調査のための海外渡航を支援する制度もあります。

また、特徴的な支援として国内学会や調査の旅費支援、各種の給付金、出版助成などもおこなっています。

修了者は、日本国内外の国立・公立・私立大学の教員、その他の研究機関研究員のみならず、研究経歴を活かして、高等学校・中学校の教員、公務員、一般企業会社員、NPO職員として活躍しています。

2. 優秀な教授陣

文学研究科は、人文学、言語学、人間行動学などの多様な学問分野の教員からなっています。伝統的で確立した体系からなる学問分野はもちろん、文化構想学のようなユニークな特徴をもつ専攻も擁しています。

教員には、学界で活躍するベテラン、中堅の研究者が多い一方、新進気鋭の若手の研究者も少なくありません。彼ら彼女らによる多彩な研究活動は、国内外で高い評価を得ており、大学院生に対する最先端の教育へと結びついています。

文学研究科に併設される文学部もそうですが、少人数教育を大きな特徴としています。教員と学生（大学院生）との距離が短く、時間と空間を共有することの利点を活かして、大学院生の教育が行われています。

2022年度に開設した大阪公立大学大学院文学研究科では、このような優秀な教授陣が継続して教育にあたり、大阪市立大学大学院文学研究科の特徴を継承しています。

4. 開かれた門戸

大阪公立大学には、留学生の就学・研究を支援するさまざまな制度があります。学費の減免制度、各種の奨学金などです。社会人で大学院を目指そうとするみなさんには、社会人の特性に配慮した入学試験制度（社会人特別選抜）を設けるだけでなく、入学後、じっくりと研究を進めるための長期履修学生制度^{*3}などを文学研究科として用意しています。

文学研究科はまた、大阪を中心とする地域での活躍、地域との連携を重視しています。上方文化講座は、大阪の地で育まれた伝統芸能「文楽」を学問的体系のもとに学ぶことができる貴重な場です。大阪公立大学は大阪市博物館協会と包括連携協定を結んでいますが、研究や人材面で文学研究科は大きな貢献をしています。この他、文学研究科教員の研究成果を広く市民に伝えるため、人文選書（和泉書院）や文学研究科叢書（清文堂）を刊行しています。

- ※3 長期履修学生制度：申請の条件について、詳しくはp.11を参照

研究科の概要

理念

21世紀を迎えた現在、これまでの「知」のあり方は大きく変わろうとしており、人々の関心や研究目的は多様性をますます帯びつつあります。大阪公立大学文学研究科は、そうした流行する「知」に潜む不易の本質を見すえて、学問的「知」の組み替えに挑戦してきました。そして、以下の理念の下に、既存の学問の垣根を越えて、都市文化を複合的にとらえる試みを続けてきました。2022年度からは、大阪公立大学大学院文学研究科として、この理念とカリキュラムを引き継ぎました。

教育の目標

<大学院博士前期課程>

- 人文科学や行動科学の分野において、先端的知識と方法を身につけ独創的研究をみずから行いうる研究者を養成します。
- 地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応える高度専門職業人を養成します。
- 生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に対する深い理解を通して、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人を養成します。

沿革

大阪市立大学大学院文学研究科は、1953（昭和28）年4月に、社会学・地理学・国文学・中国文学・英文学・独文学の修士課程6専攻をもって発足しました。その1年後の1954（昭和29）年には、哲学・心理学・東洋史学・仏文学専攻が増設され、翌1955（昭和30）年4月には、哲学・社会学・心理学・国文学・中国文学・英文学・独文学の7専攻の博士課程が設置されました。

その後、修士課程・博士課程において順次専攻が設置され、1971（昭和46）年4月に12専攻（哲学・社会学・心理学・教育学・国史学（のち日本史学）・東洋史学・地理学・国文学・中国語・中国文学・英文学・独文学・仏文学）すべてにおいて修士課程、博士課程を擁する体制が整いました。

1974（昭和49）年6月の大学院設置基準の制定に伴い、1975（昭和50）年4月から、2年間の博士前期課程と3年間の博士後期課程とに区分され、博士前期課程は修士課程として

- 人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象とそこに内在する普遍性を探究します。
- 人間、社会、都市、文化をとりまく今日の課題の解決に貢献し得る人文科学・行動科学の構築をめざします。
- 先端的研究成果をグローバルな視野から情報発信できる国際的競争力を備えた最高水準の教育・研究をめざします。

<大学院博士後期課程>

- 人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者を養成します。
- 国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者を養成します。

取り扱われることになりました。

以後、長らくこの体制で推移してきましたが、2001（平成13）年4月に大学院が部局化されると同時に、これまでの12専攻は、哲学歴史学・人間行動学・言語文化学の3専攻に再編され、各専攻の中に14の専門分野（専修）が置かれ、これに新しくアジア都市文化学専攻（大学院課程のみ）が設けられました。そして、いずれも博士前期課程と博士後期課程をもつ4専攻として編成されました。また、2010（平成22）年4月に、言語情報学が言語応用学専修となりました。そして2020（令和2）年4月には、アジア都市文化学専攻に代わって新たに文化構想学専攻が開設されました。

さらに、2022年4月からは、大阪公立大学大学院文学研究科として、大阪市立大学大学院文学研究科の理念、カリキュラム、教員体制を引き継いでいます。

アドミッション・ポリシー（学生受入方針）

文学研究科は、人間、社会、文化、言語に関心を持つ人間性豊かな人を育成することを目標としています。それに対応して、以下のような学生を求めます。

<大学院博士前期課程>

- 志望する専攻に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人
- 志望する専攻の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人
- 志望する専攻の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<大学院博士前期課程>

- 人文科学・行動科学の専門領域に関する高度な専門的知識を培う。
- 人文科学・行動科学の専門領域において明確な問題意識をもって研究を行える能力を培う。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

<大学院博士前期課程>

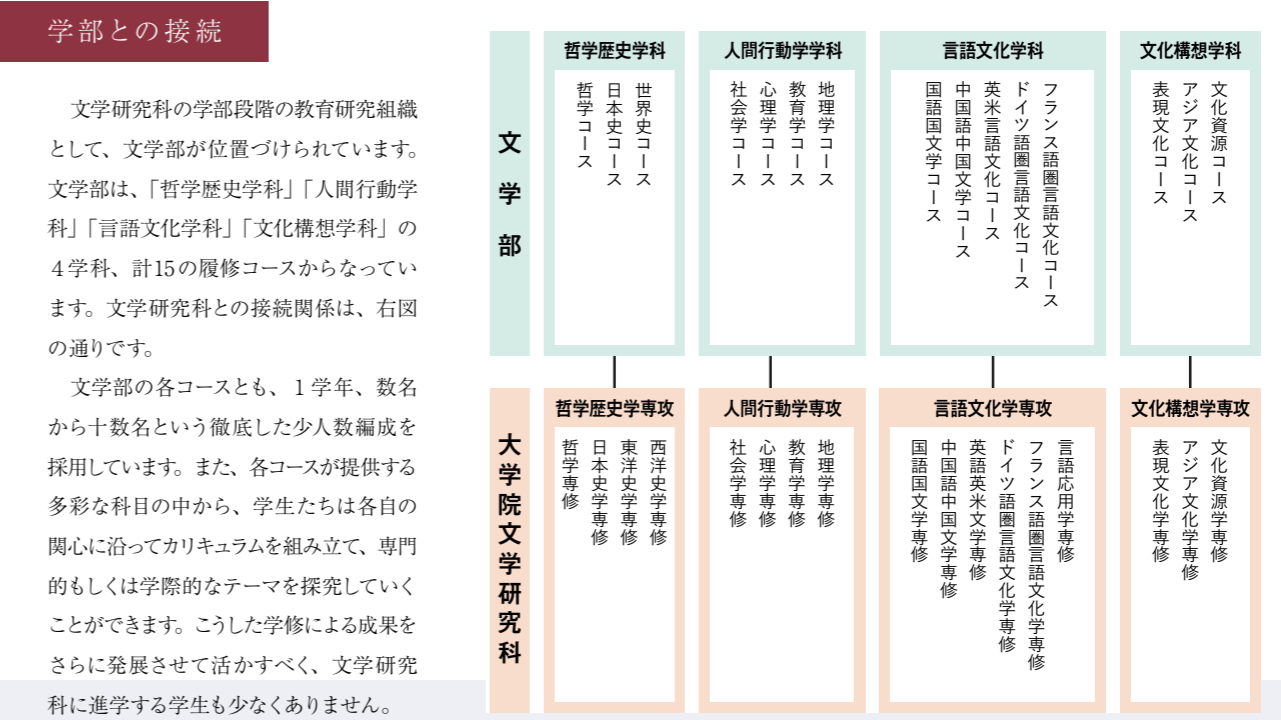
教育の目標を達成するために設置された教育課程において、所定の単位を修得したうえで修士論文を提出し、厳正なる審査に合格した者に、学位が授与される。

<大学院博士後期課程>

- 志望する専攻において最先端の研究課題を探究する意欲と、そのための基礎的な知識と能力を身につけた人
- 志望する専攻における国内外の教育研究組織と連携して国際的、学際的な研究を推進する意欲とそのための資質を身につけた人

<大学院博士後期課程>

- 人文科学・行動科学の専門領域において深い学識にもとづき独創的な研究を行える能力を培う。
- 研究成果を国内外に発信できる情報発信能力を培う。



専攻・専修一覧と特色

専攻	特色	専修
哲学 歴史学 専攻	人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追究することを目的とします。哲学と歴史学という、方法論は異なるものの、人間文化の基礎を研究する両分野を統合したところに特徴があります。人間理解のための二つの基本的な座標軸といてよい哲学的観点と歴史学的観点を統合した教育研究体制は、激しく変動する時代潮流の中で、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにすることを可能にします。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人を養成します。専攻内には、学問分野と研究方法に応じて、哲学、日本史学、東洋史学、西洋史学の各専門分野を設けます。	<ul style="list-style-type: none"> 哲学専修 日本史学専修 東洋史学専修 西洋史学専修
人間行動学 専攻	人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代都市の社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉えるような教育研究を行なうものです。その際に、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基礎に、実証的なデータに基づく人間行動や社会現象の分析と理解や理論化を重視します。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会やその中で生活する人間を客観的に観察する目を養い、大学、研究所等の研究職のみならず、教育、福祉、情報産業、官公庁における高度な専門的知識と技術をもった専門家として活躍できる人材を養成します。専攻内には、学問分野と研究方法に応じて、社会学、心理学、教育学、地理学の各専門分野を設けます。	<ul style="list-style-type: none"> 社会学専修 心理学専修 教育学専修 地理学専修
言語文化学 専攻	本専攻は、言語、文学、文化学およびその関連領域を研究しています。言語学分野は、日本語学(国語学)、中国語学、英語学、ドイツ語学、フランス語学という個別言語学と、英語・中国語・アルタイ諸語・日本語などを対象とした言語の比較研究、語用論研究、言語獲得研究などを扱う言語応用学から成っています。文学分野においては、日本の古代文学・中世文学・近世文学・近代文学、中国の文学、英語圏の近世イギリス文学・近現代イギリス文学・アメリカ文学・ニュージーランド文学、ドイツ語圏の近現代の文学、フランス語圏の19世紀の文学・20世紀の文学など多彩な研究が行われています。文化学というのは、伝統的な言語研究や文学研究に留まらず、文化や社会事象との関連に研究の幅を広げたもので、文学テキスト・演劇・映画・言語に現れる宗教・人種・階級・ジェンダー・コミュニケーションの諸相に関する研究が行われています。	<ul style="list-style-type: none"> 国語国文学専修 中国語中国文学専修 英語英米文学専修 ドイツ語圏言語文化学専修 フランス語圏言語文化学専修 言語応用学専修
文化構想学 専攻	文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかるために、理論と実践の双方から新たな文化研究を展開することを目的とします。さまざまな時代・地域やメディアにおける多様な文化現象のありかたを領域横断的に解明する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実際についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていきます。このような教育、研究を通して、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想できるような研究者や専門職業人の育成をめざします。専攻内には、学問分野と研究方法に応じて、表現文化学、アジア文化学、文化資源学の各専門分野を設けます。	<ul style="list-style-type: none"> 表現文化学専修 アジア文化学専修 文化資源学専修

研究科組織

専攻	専門分野(専修)	教授	准教授	講師
哲学 歴史学 専攻	哲学	仲原 孝 高梨 友宏	土屋 貴志 佐金 武	
	日本史学	仁木 宏 岸本 直文 佐賀 朝	磐下 徹 齊藤 紘子	
	東洋史学	平田 茂樹 渡辺 健哉 濱本 真実	上野 雅由樹	
	西洋史学	北村 昌史 草生 久嗣	向井 伸哉	
人間行動学 専攻	社会学	石田 佐恵子 伊地知 紀子 川野 英二	平山 亮 笹島 秀晃	
	心理学	山 祐嗣 川邊 光一 佐伯 大輔	橋本 博文	
	教育学	添田 晴雄 伊井 義人 弘田 陽介	辻野 けんま 島田 希	
	地理学	山崎 孝史 祖田 亮次	木村 義成 菅野 拓	
言語文化学 専攻	国語国文学	丹羽 哲也 小林 直樹 久堀 裕朗 奥野 久美子	山本 真由子	
	中国語中国文学	張 新民 大岩本 幸次	高橋 未来	
	英語英米文学	田中 孝信 豊田 純一	*RICHARDS, Ian *古賀 哲男 内丸 公平	
	ドイツ語圏言語文化学	高井 絹子	長谷川 健一	信國 萌
	フランス語圏言語文化学	福島 祥行 白田 由樹	原野 葉子	大山 万容
	言語応用学	山崎 雅人 田中 一彦	辻 香代	小倉 雅明
文化構想学 専攻	表現文化学	*野末 紀之 高島 葉子 増田 聡	海老根 剛	
	アジア文化学	多和田 裕司 堀 まどか 宋 恵媛	王 静	
	文化資源学	小田中 章浩 菅原 真弓	沼田 里衣 天野 景太	

*2024年3月末退職予定

2023年4月時点

研究支援体制

1. 文学研究科独自の若手研究者支援制度

文学研究科では、若手研究者を支援するさまざまな制度を設けています。
(対象者略号 M: 大学院博士前期課程在学者 D: 大学院博士後期課程在学者 OD: 大学院修了者または単位修得退学者)

(1) 研究奨励給付金制度 (対象者D)

博士後期課程に在学する優秀な大学院生に50万円を上限とする研究奨励金(返還不要)を給付する制度です。大学院生に研究に専念できる環境を提供し、研究者にふさわしい能力を育成することを目的としています。
なお、これとは別に全学においても独自の研究奨励金・特別研究奨励金があります。

(2) 中長期海外渡航助成制度 (対象者D)

博士後期課程に在学し、中長期(3か月～1年)にわたり海外の大学や研究機関での研究を希望する大学院生を対象に、50万円を上限として助成を行う制度です。

(3) 旅費支援制度 (対象者M・D)

大学院生の国内における学会発表や学会参加、研究調査にかかる旅費(交通費・宿泊費)を支援する非常にユニークな制度です。支給額の上限は1回につき5万円です。

(4) 文献複写費援助制度 (対象者M・D)

大学院生に文献複写や授業用レジュメを作成するためのコピーカード等を毎年配布する制度です。

(5) TA(ティーチング・アシスタント)・TF(ティーチング・フェロー)制度 (対象者D)

大学院生に有償で授業の補佐や研究室運営などの教育支援業務に従事してもらい、あわせて自身の教育研究者としての資質向上にも役立ててもらうことを目的とした制度です。報酬は業務内容等により異なります。また、2022年度からは新たにTF制度が導入されました。従来のTAより高度な授業の補佐等に従事し、キャリア・アップが可能となりました。

(6) 博士論文出版助成制度 (対象者OD)

文学研究科に提出した学位論文(課程博士論文)に基づく図書を刊行する際、50万円を上限に出版助成を行う制度です。申請時に学位取得後5年以内であることが条件です。
この制度を使って以下の書籍が刊行されています。
・木戸紗織『多言語国家ルクセンブルク教会にみる三言語の使い分けの実例-』(2016年3月、大阪公立大学共同出版会)
・新谷和之『戦国期六角氏権力と地域社会』(2018年5月、思文閣出版)

(7) 大学教育授業実習制度 (対象者OD)

大学教員への道を目指しているポストドクター(PD)等を対象に、大学教員養成プログラム(プレFD)を実施し、その一環として文学部専門科目の一部授業を非常勤講師として担当してもらう制度です。大学教員としてのキャリア形成をはかり、大学への就職の可能性をより高めることを目的としています。

▶ <https://www.omu.ac.jp/lit/graduate/support/>

※これらは、すべて大阪公立大学大学院文学研究科の2023年4月現在の制度です。

2. 文学研究科独自の国際発信支援事業

文学研究科では、グローバル化する研究環境に適応し、研究成果を国際的に発信できる若手研究者を体系的に育成するため、多数のプログラムを実施しています。

(1) インターナショナルスクール集中科目

文学研究科がカバーする研究分野について、学外から招いた講師が英語で講義します。また、講義内容について、受講者を交えて英語でディスカッションを行います。集中講義として開講され、博士前期課程の大学院生は、単位を取得することができます。

(2) 短期の海外渡航支援

海外での学会発表や調査に対して金銭的補助を行います。

(3) 外国語による発信への校閲・補助

大学院生が国際発信のために外国語で執筆する論文の校閲の費用を補助します。

(4) 外国人留学生への日本語発信支援

日本語を母語としない方には、2020年度から新たにブルーフ・リーダー制度を導入し、日本語で執筆する論文の校閲支援を行っています。毎年、10件前後の申請に対して論文校閲の補助をします。

(5) 提携大学との国際共同セミナーにおける発表支援

アメリカのイリノイ大学との共同で毎年、開催している国際セミナーでの研究発表にあたり、渡航費や英語による発表準備支援など、外国語による国際発信・交流の支援を行っています。

以上のほか、様々な支援を計画中です。

▶ <https://www.omu.ac.jp/lit/is/>

※これらは、すべて大阪公立大学大学院文学研究科の2023年4月現在の制度です。

3. 都市文化研究センター（Urban-Culture Research Center:UCRC）

文学研究科・都市文化研究センターでは、毎年数十名のポストドクター・オーバードクターや博士後期課程大学院生などの若手研究者を「UCRC 研究員」として採用し、文学研究科教員の指導のもと、都市・文化に関する研究を推進しています。UCRC 研究員に採用されると、図書館が利用でき、文学研究科内プロジェクトへの参加資格も得られるほか、UCRCで発行している学術雑誌『都市文化研究』への投稿が可能となります。

なお、2025年度の森之宮キャンパス進出を目的として、UCRC では新しい機構への再編を計画しており、新センター構想案を検討中です。構想案については、研究科HPなどで公表しており、今後も随時更新していく予定です。

UCRCの活動に関する情報、以下のWebサイトで公開しています。

▶ <https://www.omu.ac.jp/lit/ucrc/>

都市文化研究プロジェクト

都市文化研究センター（UCRC）ではこれまで、大学院生やポストドクター（PD）に対する学術面での積極的支援を行ってきました。この「都市文化研究プロジェクト」は、博士後期課程在籍者やPD主体の起案型研究プロジェクトです。プロジェクト申請はグループ単位を基本としますが、研究員単独での申請や、博士後期課程大学院生や教員との共同での申請が可能です。活動の機会として、定期的開催される「研究フォーラム」など様々な学術交流の場が設けられ、研究成果を国内外へ発信するためのプラットフォームを提供しています。さらに、文学研究科教員によってすすめられる「文学研究科プロジェクト推進研究」とも連携し、すぐれたプロジェクト提案者に対して資金や機会の提供を行っており、「文学部・文学研究科オープンファカルティ」や「大学院研究フォーラム」などにも、UCRC 研究員が参加しています。

※これらは、すべて大阪公立大学大学院文学研究科の2023年4月現在の制度です。

4. 大学院生への経済的支援制度

大学院生への経済的支援制度としては、授業料減免制度のほか、各種の奨励金・奨学金があります。

授業料減免制度

まず大阪府在住者を対象とした「大阪公立大学等授業料等支援制度」があります。大阪府では、大阪で子育てをしている世帯への経済支援策として、2020年度入学生から、政府による高等教育の修学支援制度に大阪府独自の制度を加え、大阪公立大学・大阪府立大学・大阪市立大学の在学学生を対象に実施しています。大阪府内在住で博士前期課程・同後期課程に在学しており、家計の経済状況などいくつかの条件を満たせば申請が可能で、審査の上で、授業料半期分の全額から3分の1が免除されます。

また上記の大阪府による支援制度の対象とならない大学院生（博士前期・後期とも）のために本学独自の授業料減免制度もあり、経済的理由のため授業料納付が困難な大学院生を対象に、一定の審査を経て授業料の減免を行っています。

各種の奨励金・奨学金

本学には大学院生を対象とした独自の研究奨励金・特別研究奨励金があり、大学院博士後期課程に在学の院生は、在住場所に関係なく申請が可能です。研究奨励金は年額35万円、特別研究奨励金（翌年度の日本学術振興会特別研究員への申請が条件）は年額20万円を、それぞれ給付します。両制度を併用すれば、博士後期課程大学院生は、授業料にほぼ相当する金額の給付金を、標準修業年限中は毎年、受け取ることが可能です。

上記以外にも「大阪公立大学グローバルリーダー育成奨学金」「大阪公立大学有恒会奨学金」など、本学独自の給付型奨学金制度が用意されています。

また、以上の本学独自の奨励金・奨学金のほかにも、日本学生支援機構（JASSO）の貸与奨学金（無利子の第一種、有利子の第二種のほか、入学時特別増額貸与奨学金があります）や、各種の民間団体等による奨学金も、もちろん利用が可能です。

▶ https://www.omu.ac.jp/campus-life/tuition/financial_aid/

長期履修制度 — 社会人院生のために

社会人などとして働きながら大学院生として研究し、修士論文、博士論文を執筆することは簡単なことではありません。そうした勉学意欲の強い方々をサポートするため、長期履修制度を設けています。

博士前期課程(標準2年間)の場合は、3年から4年をかけて課程を履修することができます。博士後期課程(標準3年間)では、4年から6年で課程を修了することができます。

余裕をもって研究に取り組み、じっくりと論文を仕上げることを保障するのが、この長期履修制度です。

この制度を利用するためには、職業を有すること、育児・介護などに従事していること、その他の条件があります。

大学院入学の直前(4月に入学する直前の3月)に研究科に対して制度の適用を申請する必要があります。また、制度の適用・使い方などに不安があるようであれば、受験前に、各専修の教員や学生サポートセンター文学研究科の教務担当者とよく相談しておいてください。

私たちは、働きながら学ぼうとする大学院生を歓迎します。

※これらは、すべて大阪公立大学大学院文学研究科の2023年4月現在の制度です。

問い合わせ先 | 学生サポートセンター1Fの文学研究科担当窓口までどうぞ

TEL: 06-6605-2353 Mail: gr-kyik-lit@omu.ac.jp

大学院入試について

1. 募集専攻・募集人員

研究科名	専攻名	博士前期課程（修士）	博士後期課程（博士）
文学研究科	哲学歴史学	14	5
	人間行動学	16	6
	言語文化学	18	6
	文化構想学	12	4
	計	60	21

2. 入試の種類

大阪公立大学大学院文学研究科は、博士前期課程・博士後期課程の二つからなり、それぞれ三つの種類の入学試験を行います。出願資格の詳細については、学生募集要項で確認してください。

一般選抜

<博士前期課程>

大学を卒業した者及び卒業見込みの者、大学改革支援・学位授与機構などにより学士の学位を取得した者を対象としています。

<博士後期課程>

修士の学位又は専門職学位を有するもの及び取得見込みの者を対象としています。

外国人留学生特別選抜（大学院）

<博士前期課程>

日本国籍を有しない者で、外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び修了見込みの者、外国人留学生として日本の大学を卒業した者及び見込みの者を対象としています。

<博士後期課程>

日本国籍を有しない者で、外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び取得見込みの者、外国人留学生として日本の大学院において修士の学位又は専門職学位を授与された者及び取得見込みの者を対象としています。

社会人特別選抜（大学院）

<博士前期課程>

大学を卒業した者及び卒業見込みの者、大学改革支援・学位授与機構などにより学士の学位を取得した者、加えて3年以上の職業その他の社会的経験を有する者を対象としています。

<博士後期課程>

修士の学位又は専門職学位を有する者、もしくは外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、加えて3年以上の職業その他の社会的経験を有する者を対象としています。

3. 入試スケジュール

	募集要項サイト掲載時期	出願	入学試験	合格発表
博士前期課程	6月頃	7月 12月	9月* 2月	9月 3月
博士後期課程		12月	2月	3月

*年によって8月末になることがあります。
※日程の詳細については、学生募集要項をご確認ください。

大学院入試関連

▶ 過去問題の閲覧方法

Webサイト https://www.omu.ac.jp/admissions/g/exam_info/graduate/g_s_lit/ をご確認ください。

▶ 大学院学生募集要項の入手方法

募集要項は、大阪公立大学入試情報サイト（https://www.omu.ac.jp/admissions/g/exam_info/graduate/g_s_lit/）に掲載されます。

▶ 教員による事前相談について

大学院博士前期課程、大学院博士後期課程への進学を希望しておられる方は、進学希望先の専攻の教員と事前によく相談してください。

▶ 大学院入試説明会

毎年、6月と11月に大学院説明会が開かれています。文学研究科全体の説明会に加えて、専門分野ごとの説明会も開催されます。

研究生、科目等履修生について

▶ 研究生制度について

大学を卒業した者、またはこれと同等以上の研究能力を有すると認められる者を研究生として受け入れることがあります。受入は原則として毎年4月のみです。志願者は、指導を受けたい教員と研究内容等について事前によく相談していただく必要があります。

▶ 科目等履修生について

博士前期課程の開講科目中、一部の科目を履修することができます。

取得できる資格

大学院博士前期課程修了の単位を修得することにより、より専門性の高い教育職員免許状である「専修免許状」（中学校・高等学校）を取得することができます（但し、各専修ごとに指定されている校種・教科に対応する教育職員一種免許状をすでに取得しているか、その取得に必要な科目の単位をすべて修得していることが必要です）。

学部で開講している〈博物館に関する科目〉を履修し、単位を修得することにより、博物館学芸員の資格を取得することができます。

人間行動学専攻の大学院博士前期課程学生で、すでに社会調査士の資格を有する者は、専門社会調査士関連科目を履修し、単位修得することによって、専門社会調査士申請資格を取得することができます。

問い合わせ先

学生サポートセンター1Fの文学研究科担当窓口までどうぞ

TEL：06-6605-2353

Mail：gr-kyik-lit@omu.ac.jp